

6

国際交流推進室（グローバルセンター）の活動

国際交流推進室 室長 細越久美子（社会福祉学部教授）、副室長 桑原尚子（総合政策学部准教授）
 室員教員 看護学部 教授 アンガホッフア司寿子、ソフトウェア情報学部 准教授 南野謙一
 盛岡短期大学部 准教授 熊本早苗、宮古短期大学部 准教授 大前義幸
 高等教育推進センター 准教授 江村健介
 国際交流専門員 森彩綾花、スタッフ 工藤真結子

該当する
原則

原則 6：人々の国際市民としての意識を高める

原則 10：異文化間の対話や相互理解を促進し、不寛容を取り除く

1. 国際交流推進室（グローバルセンター）の概要

国際交流推進室が運営するグローバルセンターは岩手県立大学の国内外の学生・教職員の国際交流の拠点として、2023年にオープンした。主な業務は、次の通りである。

- 研修・海外留学・国際交流に関する相談
- 外国人留学生・外国人研究者の教育・生活関連の相談
- 国際交流イベントの企画・運営
- 海外協定校との連絡・調整

定期的に留学生が出身国の文化や食生活等を紹介する多文化理解講座（図1）、多文化理解イベントの開催、留学生オリエンテーション・日本語支援、海外研修紹介、留学生との交流バスツアー、ホームビジット等を企画・運営している。

2. 多文化理解講座

外国人留学生や海外留学を体験した日本人学生が、出身国や留学先を紹介する。言語や歴史、食文化などのほか、大学で勉強している分野について日本と現地の違いを紹介する学生もいて、新たな見識の助長の場になっている。

3. 滝沢市国際交流協会と連携した国際交流の取組

外国人留学生と地域との交流を目的に滝沢市国際交流協会のご協力により、2024年7月に日帰りホームビジット、同年12月は1泊2日のホームステイを行った。合計7家庭に11名の外国人留学生を受け入れていただいた。

外国人留学生は、料理を一緒に作ったり、着物を着たり（写真1）、観光に連れて行ってもらうなどホストファミ



図1 多文化理解講座



写真1 着物体験

リーと充実した時間を過ごすことができた。

また、ホームビジット及びホームステイ終了後は受入れ家庭に参加した外国人留学生を主な対象に報告会を開催した（写真2）。外国人留学生からは「ホストファミリーが計画されたアクティビティが楽しかった」、「ホストファミリーの皆さんの温かなおもてなしのお陰で、とても充実した時間を過ごすことができた」、「日本の家庭での日常生活や文化に触れる機会を得られたことは、とても貴重で忘れられない経験です」などの感想が寄せられた。

国際交流推進室では、引き続き滝沢市国際交流協会や他団体と連携した事業を通じながら、外国人留学生と地域住民との相互理解や交流を促進するとともに、地域の国際化に取り組んでいきたい。



写真2 ホストファミリーと外国人留学生との報告会の様子

4. 夏季国際交流研修バスツアー

2025年7月21日に奥州市えさし藤原の郷と一関市厳美溪へ夏季国際交流バスツアーを実施した。参加者は外国人留学生14名、日本人学生18名、教職員3名の計35名で、猛暑の中でのバスツアーであったが、途中で体調不良者を出すこともなく、見学先や道中で参加者同士の会話が途切れることなく終始穏やかで明るい雰囲気でのバスツアーを実施することができた（写真3,4）。

「えさし藤原の郷」

奥州市江刺にある平安時代を題材とするテーマパーク。奥州藤原氏の歴史を顕彰しながら、古代から中世にかけての東北の歴史文化を体感できる。多くのドラマや映画のロケ地として知られる。

※奥州藤原氏は、平安時代後期に現在の岩手県・宮城県北部（陸奥国）を中心に栄えた地方政権を築いた一族。初代・藤原清衡が平泉（現在の岩手県平泉町）に拠点を構え、その後3代・約100年にわたって繁栄した。

「厳美溪」

一関市にある磐井川中流の溪谷。古くから景勝地として親しまれている。厳美溪では「空飛ぶだんご」として知られる郭公だんごが名物となっている。また、周辺にはサハラガラスパーク、一関市博物館、道の駅厳美溪が徒歩圏内にある。



写真3 夏季国際研修交流バスツアーの様子（2026年実施）



写真4 夏季国際交流バスツアーの様子（2026年実施）